

## 八幡台防災ニュース

### 火災発生時に必要な初期行動について

起きてはならない住宅火災ですが、万一火災が発生した場合に、どうすれば命を守り、被害の極小化が図れるかを日頃から想定（イメージ）しておくことが大切です。



火災が発生したら、すぐに 119 番（消防）通報をしましょう。通報後、火が室内の天井まで上がっていないようであれば、自宅もしくは自治会備え付けの消火器で初期消火を試みましょう。その際に、大きな声を出して隣近所へ火事を知らせるとともに協力を要請してください。10 分程度で消防が到着します。しかし、煙が大量に出ているような場合は、絶対に室内へは留まらないでください。

住宅火災では、深夜就寝中に発生した火災に気づかず逃げ遅れて、尊い人命を亡くすケースが多くみられます。出火元としては、ストーブやたばこ、電気器具が挙げられ、いわゆる失火から衣類や寝具など身の回りの可燃物へ二次着火し、延焼拡大という経過をたどる例が住宅火災の典型です。また最近では、老朽化した電気器具やたこ足配線といった不適切な使用による火災も少なくありません。身の回りの火気管理を再確認しておきましょう。

高齢者にとっては、聴力や運動能力の低下により、火災発生時の対応が遅れることから犠牲者が多いのではないかと推測されます。しかし、火災全般を見ると、住環境の変化による火災性状の変化も、逃げ遅れの一因になっていることも考えられます。

住宅の省エネルギー化による建物の高断熱、高气密化によって、室内火災でフラッシュオーバーと呼ばれる急速な燃焼が起きやすく、煙が室内へ急速に充満しやすい条件も整ってきています。

さらに、住宅内での個室化は、火災発生時の異変としてのにおいや物音にも気づきにくくなってきていることを認識しておく必要があります。

住宅火災から身を守る上で、特に知っておいてほしいのは、火災の成長は緩慢な変化ではなく、急激にその様相が変化するという点です。火災の初期状態は、出火源や隣接する着火物など、局所的な燃焼が徐々に拡大していきませんが、ある時点を超えると急速に燃焼が進み、瞬く間に部屋全体が炎に包まれるという現象が見られます。これが先述のフラッシュオーバーと呼ばれるものです。これを境に発生する黒煙には、毒性の高い一酸化炭素が含まれ、酸素も欠乏しているため、吸ったらひとたまりもありません。住宅火災では、天井に火が回るとフラッシュオーバーが起きやすくなるので、一つの目安として、天井に火が届くような状態になったら、まず何よりも避難することが肝要です。また、煙は高温で軽くなっており、階段を伝って上の階に急速に広がっていくため、上階の人が危険にさらされます。避難の際には、火災室の扉を必ず閉めましょう。それには、空気の供給を抑制し火災の成長を遅らせるとともに、住宅内での煙の拡散を遅らせるという安全上重要な意味があるのです。

平成 16 年の消防法の改正で、住宅用の火災警報器の設置が義務づけられ、普及が進んできました。住宅用の火災警報器には、火災に気付くのが遅れ、その後逃げ遅れて亡くなるという、現代の住宅火災から生命を守る上では非常に重要な対策です。また早めに感知すれば、その分、初期消火が効果を発揮して、生命、財産を守ることもできるのです。

起きてはならない住宅火災ですが、もしものために避難、初期消火、119 番通報など、家庭内の防火訓練を実施しておきましょう。

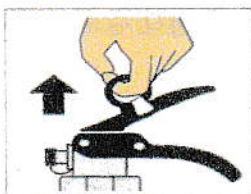


住宅用火災警報器の電池・バッテリー点検も忘れずに！！

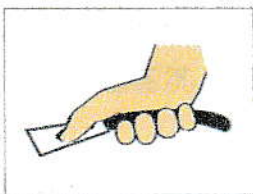
八幡台地区内に配備してある消火器は、火災全般に適応する粉末 ABC 消火器です。使い方は、とても簡単です。火が出たら、慌てず冷静に以下の操作を行ないましょう。

■ 消火器の使い方 ■

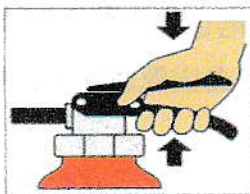
Step 1 安全栓を引き抜く



Step 2 ノズルを火元に向ける



Step 3 レバーを強く握る



消火薬剤の有効な射程距離は 3～5メートルです。

消火薬剤の有効な噴射時間は、粉末消火器で 10 秒から 15 秒程度です。避難路を確保して、射程距離の手前からホウキで掃くように消火しましょう！

なかなか消火できず天井まで火が届いてしまったときは、消火を諦めてすぐ避難してください。